「いばら姫」　グリム童話

王子は、ねむっているいばら姫があんまり美しかったので、目をはなすことができず、かがみこんでキスをしました。そのとたん、いばら姫は目をぱっちりあけました。そして王子をやさしく見つめました。それからふたりは、いっしょに下へおりていきました。

『語るためのグリム童話集３』小澤俊夫監訳／小峰書店

「眠れる森の美女」　ペロー童話

王子が手を貸して王女を起き上がらせました。王女は正装姿、それもたいそう華やかな正装でいます。王子は、しかし、お祖母様の時代のような服装で、古風な高い衿がついていますね、などとはいいません。王女の美しいことに変わりはなかったからです。

二人は鏡の間に移り王女付きの家来に給仕されて、夕食をとりました。ヴァイオリンとオーボエが、もう百年近く演奏されたことのない古い曲、けれど美しい曲を奏でます。

『完訳ペロー童話集』新倉朗子訳／岩波書店